







## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第687号	氏名	宮本 直美
学位審査委員	主査	折口 智樹	
	副査	中根 秀之	
	副査	東 登志夫	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、公害認定患者に対する呼吸リハビリテーションの効果を明らかにしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 公害認定患者 29 名（慢性気管支炎患者 11 名、気管支喘息患者 18 名）に対して、COPD 患者で確立している 12 週間の呼吸リハビリテーションプログラムを実施し、その効果を Modified Medical Research Council (MMRC) 息切れスケール、呼吸機能検査、握力・下肢筋力測定、シャトルウォーキングテスト歩行距離、ADL スコア、健康関連 QOL スコア、抑うつ質問票、身体活動量によって統計学的に解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、公害認定患者は呼吸困難感が強く、筋力低下、抑うつ傾向も伴っていたが、呼吸リハビリテーションプログラムが呼吸困難感と筋力低下を改善することを明らかにした。抑うつ傾向の改善は認めなかった。さらに、疾患別においても解析しており、気管支喘息を有する公害認定患者において呼吸困難感や下肢筋力を有意に改善することを見出した。この成果は今後の公害認定患者の呼吸器障害に対する研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は公害認定患者に対する呼吸リハビリテーションに関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと

最終試験の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第	号	氏名	宮本 直美
学位審査委員		主 査	折口 智樹	
		副 査	中根 秀之	
		副 査	東 登志夫	
<p>最終試験の結果の要旨</p> <p>主査及び副査の 3 名は、平成 26 年 1 月 28 日、上記の修了予定者、宮本直美に対して、主論文の内容、関連科目についての口頭試問および英語の理解力に関する審査を行った。</p> <p>さらに、平成 26 年 2 月 10 日の学位論文公開審査会における質疑応答の結果を含めて総合的に審査した。</p> <p>学位論文公開審査会においては、主に以下の事項について質疑応答がなされ、いずれについても明確な回答を得ることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 呼吸リハビリテーションプログラムの決定方法について</li> <li>(2) 慢性気管支炎患者と気管支喘息患者の効果の違いについて</li> <li>(3) 呼吸機能障害の程度による効果の違いについて</li> <li>(4) 呼吸リハビリテーションプログラムの効果発現の時期について</li> <li>(5) 公害認定患者において QOL が低下している理由について</li> <li>(6) 抑うつや身体活動量が改善しなかった理由について</li> <li>(7) リハビリテーションの完遂率向上のための工夫について</li> </ol> <p>以上のことから、3 名の審査委員が合議した結果、宮本直美は大学院博士課程修了者として、博士(医学)の学位を授与するに十分であると判断した。</p>				

(注) 報告番号は記入しないこと